

新漁業管理制度推進情報提供事業

堀 恭子・太田 洋志・山田 秀樹・伊藤 毅史・吉田 幸史

玄海地区沿岸漁業で漁獲される資源管理対象魚種等（重要水産資源）について、生物情報や操業情報を収集分析し、資源管理指針・方針及び資源管理計画・協定の見直し・策定のため、関係者に情報提供した。

方 法

1 漁況情報収集

マアジ、マサバ、マイワシ等の重要浮魚類の漁況を把握するため、唐津港（唐津港まき網市場と唐津沿岸物市場）取扱量、主要定置網による水揚量について情報収集した。

なお、唐津港取扱量のうち、「県内」は本県漁業者による水揚量、「県外」は他の市場等からの陸送物に、県外漁業者による水揚量を加えたものとした。

また、「主要定置網」とは玄海地区を代表する定置網4カ統（高島大敷、村張大敷、大泊大敷、宮岬大敷）とした。

さらに、広域種の資源管理を目的とした情報収集のため、水揚実態調査として、トラフグの沖合延縄漁業による水揚量を、漁協仕切書により情報収集した。

2 漁海況情報の提供

漁況情報収集結果及び海況調査結果を取りまとめ、漁海況情報として、漁業協同組合等の関係機関に提供した。

結 果

1 漁況情報収集

（1）マアジ

唐津港取扱量は5,652トンで、前年比90%、平年比（平成30年度～令和4年度の5年間平均値、以下同じ）87%であった。県内水揚量は359トンで、前年比165%、平年比107%であった。定置網による水揚量は173トンで、前年比183%、平年比91%であった（図1）。

（2）マサバ

唐津港取扱量は9,389トンで、前年比209%、平年比155%であった。県内漁獲量は66トンで、前年比92%、平年比77%であった。定置網による水揚量は49トンで、

前年比91%、平年比78%であった（図2）。

（3）マイワシ

唐津港取扱量は1,135トンで、前年比96%、平年比258%であった。県内水揚量は9トンで、前年比342%、平年比312%であった。定置網による水揚量は6トンで、前年比400%、平年比246%であった（図3）。

（4）ウルメイワシ

県内水揚量は2トンで、前年比743%、平年比55%であった。定置網による水揚量は1トンで、前年比533%、平年比25%であった（図4）。

（5）カタクチイワシ

県内水揚量は2トンで、前年比52%、平年比7%であった。定置網による水揚量は2トンで、前年比50%、平年比6%であった。中型まき網による水揚は無かった。（図5）。

（6）スルメイカ

唐津港取扱量は24トンで、前年比35%、平年比20%であった。県内水揚量は4トンで、前年比128%、平年比42%であった。定置網による水揚量は0.2トンで、前年比28%、平年比8%であった（図6）。

（7）ケンサキイカ

県内水揚量は33トンで、前年比73%、平年比57%であった。定置網による水揚量は3トンで、前年比115%、平年比42%であった（図7）。

（8）ブリ

定置網による水揚量は11トンで、前年比45%、平年比40%であった（図8）。

（9）トビウオ類

定置網による水揚量は1トンで、前年比29%、平年比18%であった（図9）。

(10) トラフグ

沖合延縄漁業による水揚量は1.2トンで、前年比73%、
 平年比62%であった（図10）。

2 漁海況情報の提供

令和5年4月から令和6年3月にかけて、各月1回、
 計12回、漁海況情報を発行した。

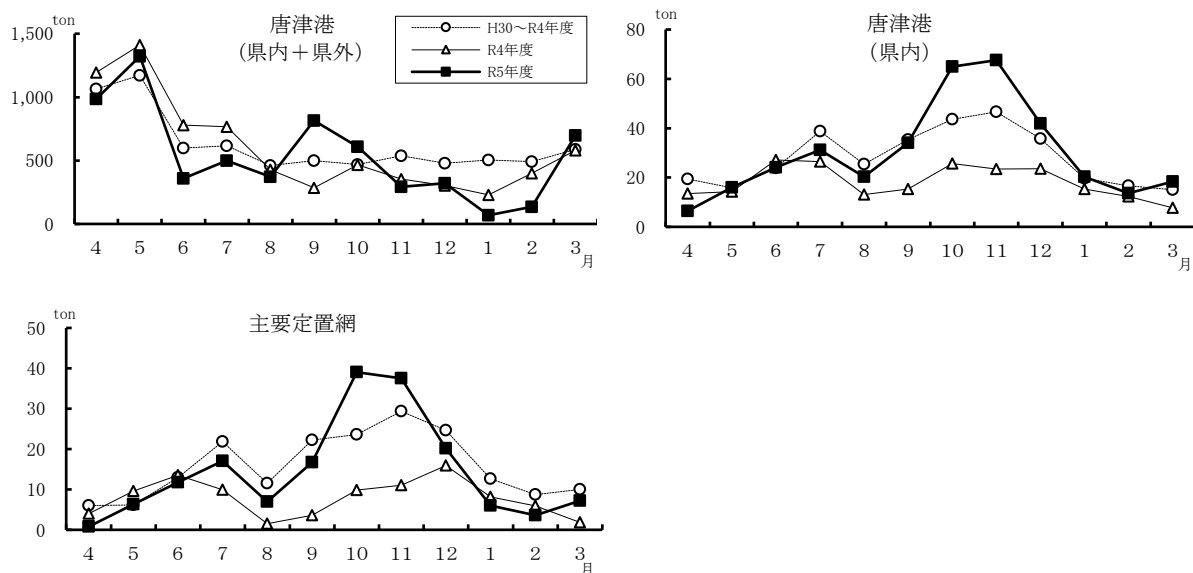


図1 マアジ水揚量の推移

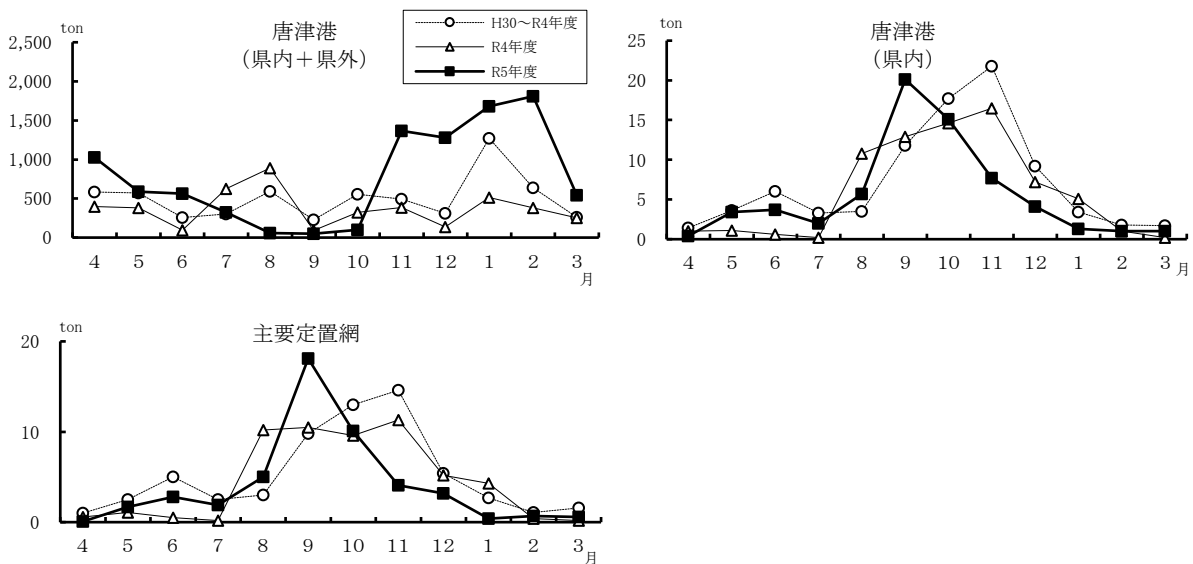


図2 マサバ水揚量の推移

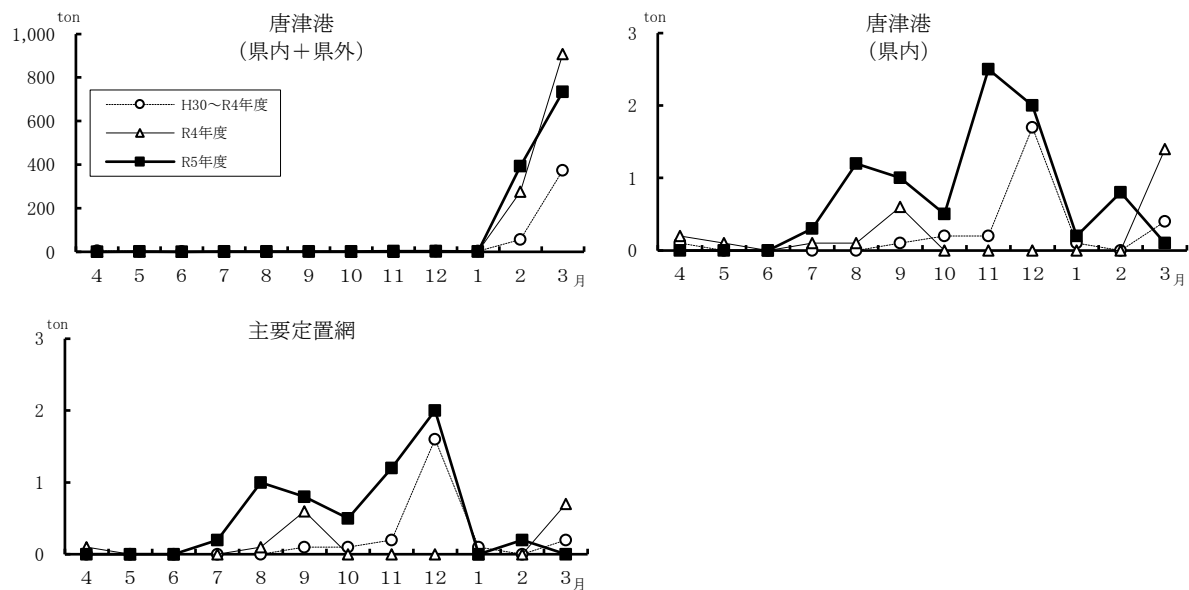


図3 マイワシ水揚量の推移

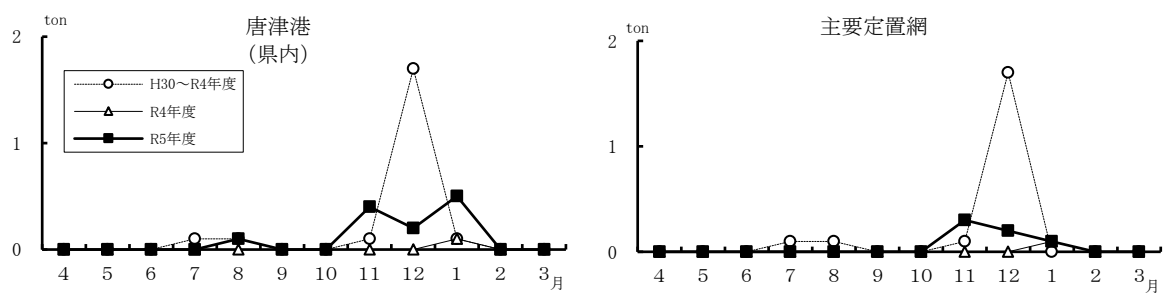


図4 ウルメイワシ水揚量の推移

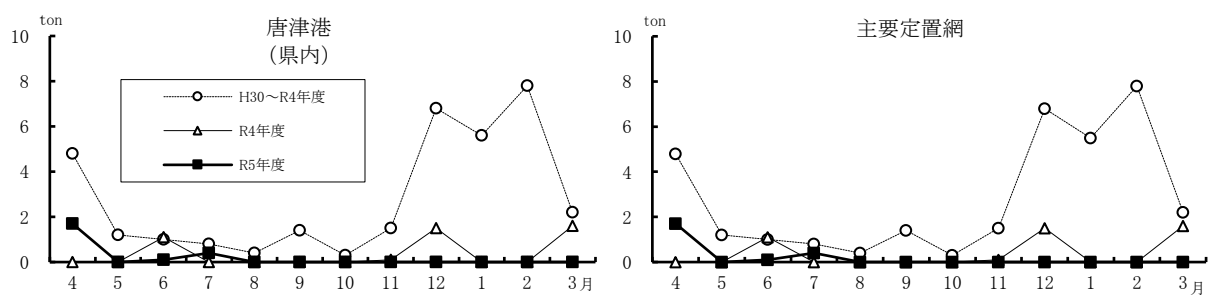


図5 カタクチイワシ水揚量の推移

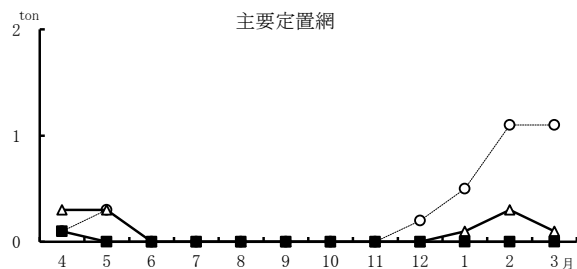
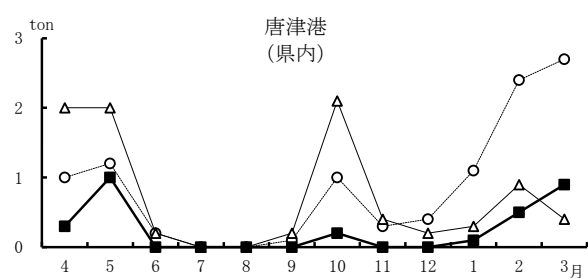
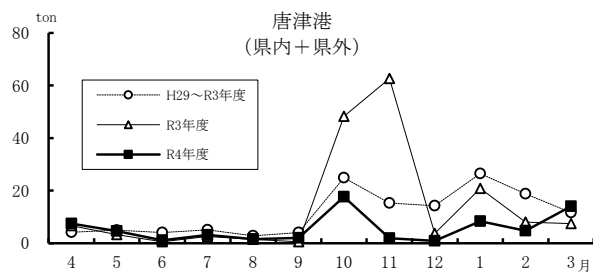


図6 スルメイカ水揚量の推移

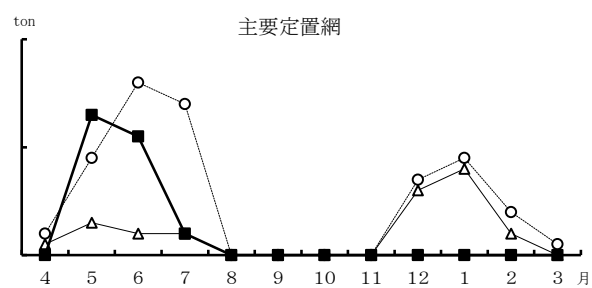
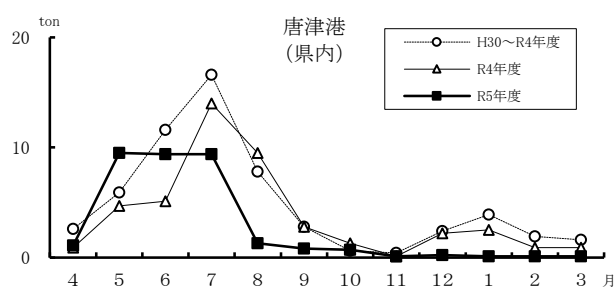


図7 ケンサキイカ水揚量の推移

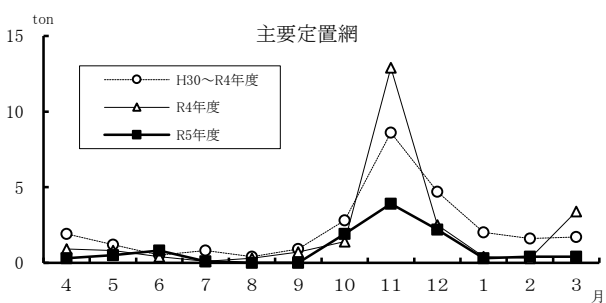


図8 ブリ水揚量の推移

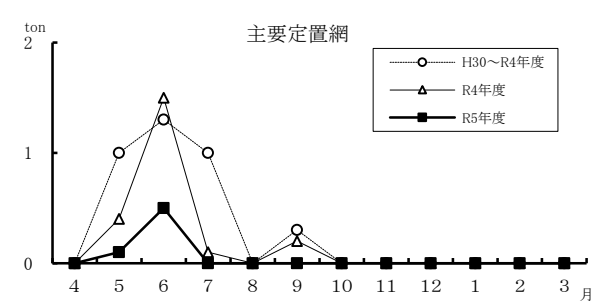


図9 トビウオ類水揚量の推移

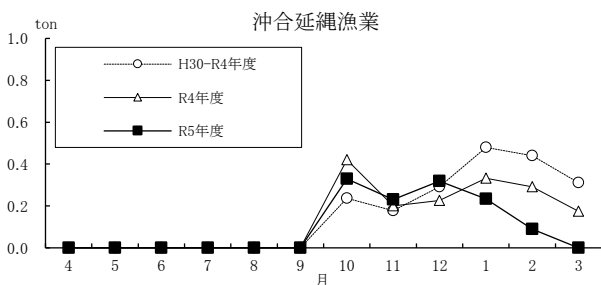


図10 トラフグ水揚量の推移